本宿村古地図　江戸時代初期の本宿村の地図

本宿は鎌倉時代まで、東西を結ぶ主要街道（最初の東海道）黄瀬川宿の一部として賑わったが、富士山の噴火や黄瀬川の氾濫により、主要街道が箱根越え（鎌倉古道）に移ったため寂れ、農村となった。

クチコミ その3　大地震、洪水での隧道破損、水論争、干ばつなど幾多の苦難を克服し守られてきた本宿用水

大きな石は避けて掘られた

安政元年の大地震で隧道大破の際は、村人たちだけで隧道を改修している間、竹原で湧き出た窪の湧水（小僧池）から水を流してもらい用水を確保しました。

また大正12年の関東大震災では、隧道の8割が崩壊したため県からの補助を受け改修するとともに、平成2年と平成10年には素掘りであった隧道の全てをコンクリート暗渠に大改修されました。

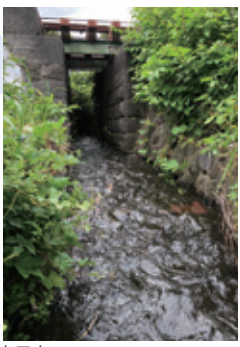
様々な困難を乗り越えてきた歴史は、本宿用水を守る気持ちの強さを伝えています。

改修前の隧道

改修後の隧道

隧道入口付近

隧道出口（協和キリン富士工場内）


現在の本宿用水

クチコミ その4　かんがいだけでなく今なお愛される『命の水』

今でも毎年4月の第一日曜日には欠かさず行われる川浚いなど、本宿区の人々により維持管理されており、本宿地域の水田地帯に安定的に水を供給し、また防火用水や生活用水など地域に不可欠な社会基盤として活用されています。

区民による川浚い

本宿泥リンピック

長泉町ふるさとカルタより

地域セミナーでの見学会

き

黄瀬川より　隧道流れる　本宿用水

鮎壺の滝の上から取水して本宿耕地に向かう灌漑用水で、慶長8年（1603）頃完成した。隧道の長さは初め508mだったが、安政の大地震（1854）で陥没した後、新しく掘削復旧させた結果、今では698m程ある。隧道出口は、協和キリン富士工場内にある。

クチコミ その5　第74回ICID執行理事会で世界かんがい施設遺産登録

登録証

登録盾

2023年11月４日インドのヴィシャーカパトナムでの、国際かんがい排水委員会（ICID）の国際執行理事会にて、画期的な技術を取り入れたプロジェクトにより、水田農業の発展と農家の経済状況改善に貢献したとして、世界かんがい施設遺産に登録決定しました。

授与式の様子

クチコミ その6　3つの世界遺産と1つの世界ジオパーク

本宿用水の取水口周辺では
- 富 士 山（世界文化遺産）
- 本宿用水（世界かんがい施設遺産）
- 箱根用水（世界かんがい施設遺産）
- 鮎壺の滝（ユネスコ世界ジオパーク）

の４つを一度にみることができます。

平成の大改修完成記念碑